

北野病院 神経精神科

住所	大阪市北区扇町 2-4-20	電話	06-6312-1201
病床数	20 床	病棟数	1 病棟

人権センターニュース No.83 より

平成 19 年 8 月 16 日訪問

平均在院日数 44 日(平成 18 年度)

病院全体について

個室 9 室(15750~21000 円)、3 人部屋 3 室(4200 円)であり、ほとんどは本人が希望し、選んでこの病院に入院しているという状況(医療保護入院はいる)。他の病棟と同じ構造になっている。入院するだけでストレスになるようなことのない、普通に生活していた人が肺炎や盲腸で入院するときと同じような感覚で入院のできる(精神科)病院があまりにも少ないと感じ、負担が生じたとしてもこの病院を使う患者がいるだろうということでこのような運用をしている。生活保護や低所得の患者もいる。経済的に難しい患者は事前にケースワーカーに相談してもらえるようなしくみがある。

開放病棟しかなく、隔離室はない。詰所横に観察室が 2 室あり、主に身体合併症のある患者が使う。精神科医師は日勤のみの為、精神科救急の受入れはしていない。

10:1 の看護基準を維持するために平均在院日数を 25 日以内にしないといけないというような外的な縛りの中でやっている。今のかたちに満足しているわけではなく、病院の精神科として赤字をださない範囲で我々のやりたいことをやっていこうと考えている。もっと重度の精神障害の方を同じかたちで診られないことも認識している。環境を活かして他ではできないことをしたい。

初診の受付は平日の午後 3 時~4 時半にまずは電話予約をすることになっていた。

地域医療支援病院に準ずる病院なので、専門的な加療が必要ということで紹介された患者を中心に診ていくことを病院全体の方針としている。総合病院なので医師の交替がはやいことか

らも、地域のかかりつけ医を持つことを勧めている。

訪問時は入院患者が 10 名だった。お盆だったことと例年夏場は少なくなるとのことで、その後(9 月)に問い合わせたときは満床だった。通常、入院患者の 8 割以上は女性。平成 18 年度は気分障害圏が 58.4%、統合失調症圏が 23.8%、神経症圏が 9.3%(病院ホームページより)。身体合併症や検査のための入院もある。年齢層は 30~40 代、70~80 代という 2 つの層の患者が多い。ほとんどの患者が 1 ヶ月以内で退院し、何ヶ月と入院する患者はいない。

病棟内では面会者数名に出会ったが、患者はほとんど出会わなかった。病院側によると「時間帯にもよるが、患者はあまりデイルームにいない。商店街や扇町公園に外出をしたり、部屋で横になっている患者が多い」。

カンファレンス

週に 1 回行われる。入院して 2 週間までの患者、退院前の患者のを中心にして話し合わせ、医師全員、出勤している看護師、PSW、病棟担当薬剤師が参加する。

リエゾン担当看護師

病院全体としてリエゾン担当の精神科看護師が 1 名配置され、他科で精神症状があらわれたときにその病棟に出向く。

電話

廊下のくぼんだ部分にあり、個室風。

(1)人権擁護委員会:ない。意見箱はクライアントサービス課が担当している。各病棟と外来にあり、1回/週回収。投書への返答は掲示や、名前が書かれている場合は本人に直接回答する。職員全員が名札の内側に「患者の皆様の権利宣言」が書かれたカードを持っている。

(2)行動制限最小化委員会:ない。

(3)担当制:患者ごとに担当看護師、病棟担当のPSWと薬剤師がそれぞれ1名ずついる。

(4)診察:診察室にて、1~2回/週以上。

(5)服薬:患者が詰所の前に取りに来る。

(6)外出:病状によって病棟内、院内という行動制限の患者もいるが、開放病棟なので本人にそれを守ってもらうしかない。

(7)金銭管理:管理料は無料。原則は自己管理で、鍵付きロッカー(無料)が全員のベッドサイドにあった。

(8)食事の選択メニュー:毎日(朝・昼・夕)。

(9)面会:個室の患者は病室で面会することもできる。3人部屋の場合は院内であれば喫茶や5階に吹き抜けのホールで面会する。面会時間は13:00~20:00。

(10)入浴:週3回。精神科には浴槽がある。この病棟ができた頃には長期在院の患者がいたため設置。

(11)携帯電話:個室か病棟外の決められた場所での使用は可能。

(12)院内売店:ある。食堂や喫茶店もあった。支払い方法は本人が現金で。

(13)PSW:病棟担当1名。外来も担当している。外来では年金や生活保護についてなど、入院中の患者に対しては退院や転院の支援、傷病手当など経済的な相談も多い。病院全体のMSWにも相談ができる。

トイレ

各室と他に身障者用2室(ウォシュレット)。ナースコール、手すりが設置されていた。

デイルーム

テーブル、椅子が置かれている部分とたたみにちやぶ台のあるスペースがあった。絵が飾られ、テレビ、本、雑誌、ぬいぐるみが置かれていた。患者の作品や季節の飾り、観葉植物、造花などがたくさん飾られていた。

病室

大きな窓があり、明るかった。温度調整は各室ででき、電気はベッドごとにつけたり消したりできる。ベッドごとにナースコールや酸素等の配管、テレビや冷蔵庫付きの床頭台があった。各室内にトイレ、洗面台があった。

患者の声

当日、デイルームにて1名の方よりお話を聞いた。「前に入院した時は、外出できる患者に無理やりテレホンカードを買わされて困った。今は、おとなしい患者ばかりなので助かる。ここは、病気の説明も薬の説明もある。看護師たちもやわらかい言葉づかいをしてくれる」

検討事項

薬の渡し方について

詰所前に行くことのできる患者は、詰所前まで取りに行くことになっていた。薬の渡し方については、一人一人の患者の状態に応じ、服薬の仕方も個別に工夫をお願いしたい。まずは看護師が病室を訪ねて薬を手渡すということをスタートラインにし、患者の状況によっては詰所に取りに来てもらう段階を設けた対応を検討していただきたい。(病院:(略)病棟スタッフにご指摘のことがらを伝えた上で、検討してまいりたいと存じます。(略))

精神保健福祉資料より(平成21.6.30時点)
12名の入院者のうち気分障害が5名(42%)、統合失調症群が5名(42%)。入院形態は任意入院12名(100%)。在院期間は全員が1年未満。